第９回教育文化振興分科会

2006年6月20日

1. 議事次第

■ 分科会は合計2時間で行います

次第	時間	内容
1　開会	5分	①挨拶 ②出欠確認（出欠表の記入） ③前回の検討内容（議事録・整理表）の確認
2　検討の進め方	10分	①検討の進め方に関する説明 ②本日の目標確認
3　話し合い	90分	
4　とりまとめ	10分	
5　閉会	5分	①次回の内容 ②次回の日程 ③意見・質問 ④最終総括（会長）

2. 本日の分科会の目標

- 事前に検討いただいた（利害）関係者の分析結果を共有します。
- グループに分かれて重点課題ごとに施策目標をたてます（⇒記入例はp.8）。
- 施策目標を実現するための施策と事業を検討します（⇒考え方はp.9～）。

※9月に前回会が予定されているため、施策・事業の検討を6、7、8の3ヶ月間で行います。
施策目標の検討はなるべく短時間で、事前検討結果を活用して効率的に進めます。

教育文化振興分野の重点課題

課題	背景・理由	やるべきこと
世代間交流の場の整備 ⇒市民福祉分科会と調整	●地域ぐるみで子育てを支援しようとしても、親同士、あるいは親世代とその上の世代（シニア世代等）が交流する場が少ない。 ●治安の悪化によって子どもを安心して遊ばせる場も少なくなっている。	●親世代だけではなく、異なる世代の大人と子どもが交流できる場を整備する。 ●たとえば、子どもと保護者、教師等がともに活動できるもの（スポーツ等）を開催する。 ●新規に建物を建てるのではなく、既存の施設を有効利用する。 ●食育に関わる取り組みや自然に触れ合う体験もこの拠点をもとに進める。
子どもを安全に遊ばせる場と人材の提供 ⇒市民福祉分科会と調整	●治安の悪化によって子どもを安心して遊ばせる場も少なくなっている。 ●一方、開かれた学校づくりという点では市は進んでいる。 ●子どもの心身の健康にとって、外で遊ばせる機会を提供することは重要である。	●安心して遊ばせることのできる場として学校の校庭の活用が有力な候補となる。 ●ただし、学校の教員が安全管理を行うのではなく、地域から有志を募る（有償でもよい）。 ●フランスではクラブ活動を担うスタッフが教師とは別に設置されている。
青年向け教育プログラムの開発と実施	●少年向けのものはあっても、行政の青年向けの施策はほとんどない。 ●青年のなかには、若くして親になった人、中絶を経験した人、異性との付き合いがずっとないまま育った人、ニートを続ける人など、様々な人がいる。 ●青年には、働くこと、恋愛、結婚、出産等について、悩みを共有し、学習する場がない。 ●青年への対応は少子対策やニート対策にもつながる。	●他の自治体も含めて行政での取り組みが非常に少ない分野であるため、教育や研修のプログラムの開発から着手する必要がある。
若者による市の文化PR	●市には文化資源が多いものの、市のPR力は弱い。 ●市の広報はビジュアル的ではなく、特に若者にとっては魅力的なつくり方とはなっていない。	●若者が市の広報誌や観光案内、ホームページ等を企画・作成する。 ●新聞社や出版社、ボランティア等と協力して若者以外の人が内容や記事の書き方等についてサポートする。 ●このような記者少年・少女に奨学金を交付すること等も検討する。
多文化共生の拠点づくり	●市では外国人労働者が増加している。 ●その子どもを中心に日本語の話せない子どもや、母語を持たない子どもが増えている。 ●国際交流という従来の考え方を超えて、多様な文化的背景をもつ人々が共に暮らしやすいまちづくりを進める必要がある。	●市で暮らすために最低限必要な日本語を教える拠点が必要である。 ●その拠点は日本人が外国語を学んだり、交互に文化を伝え合ったりできる、交流の場とする。

教育文化振興分野の重点課題（追加についての議論）

【結論】

○重点課題に学校教育のあり方を追加

⇒基礎学力を伸ばすこと
（字を書ける、計算できるだけではなく、１人で勉強できる力や周りと仲良くできる力、挨拶できる等）

【議論のふりかえり】

・教育に関心のある人（親）とない人（親）との格差

・基礎学力を学校教育の中で身に付けること

・教師の質の確保・向上（特に公立校）

・学校（教育）が窮屈になっている（国際比較への過剰反応）

・１人で勉強する力が弱くなっていないか？

・少子化で親が子どもの面倒を見すぎ？（親への教育も必要）

・社会性（やっていいこと悪いことの区別）の育成（公に生きるということ、マナー）

・食育

・小中一貫校を検討してはどうか

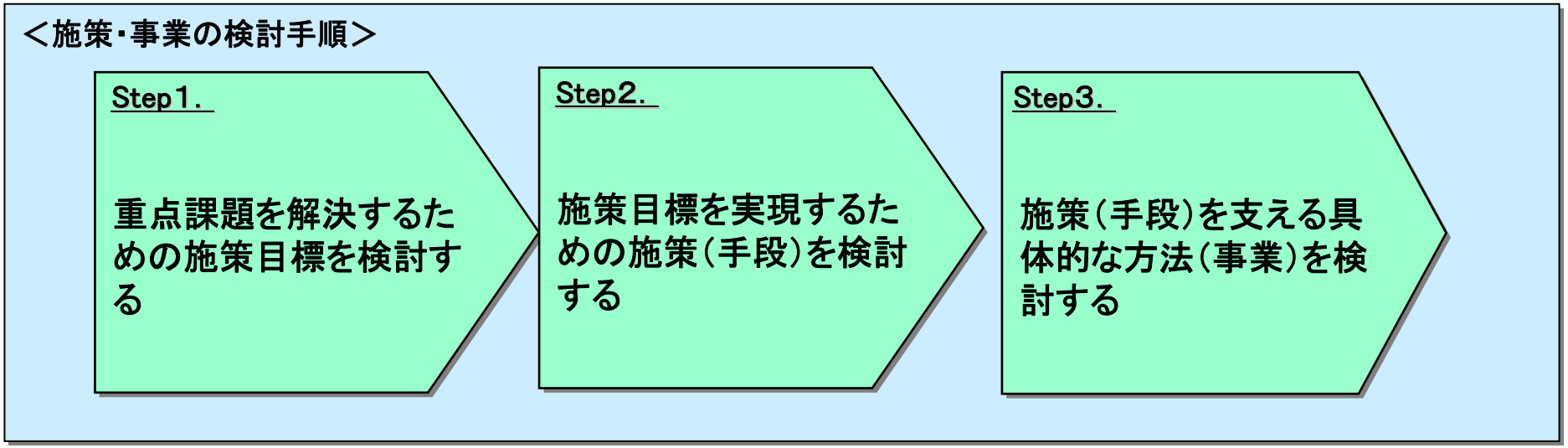
・教師と生徒・児童がふれ合うこと（教師数を増やしたり、学校の利用時間を延ばしたりすること）が必要

・学力テストはデータをとるだけでなく、個々の子どもの学力向上に役立てる必要がある

4. 施策・事業の検討　①検討の流れ

施策・事業は以下の流れで検討します

＜施策・事業の検討手順＞



4. 施策・事業の検討　②施策目標の検討
＜第8回分科会の検討結果＞

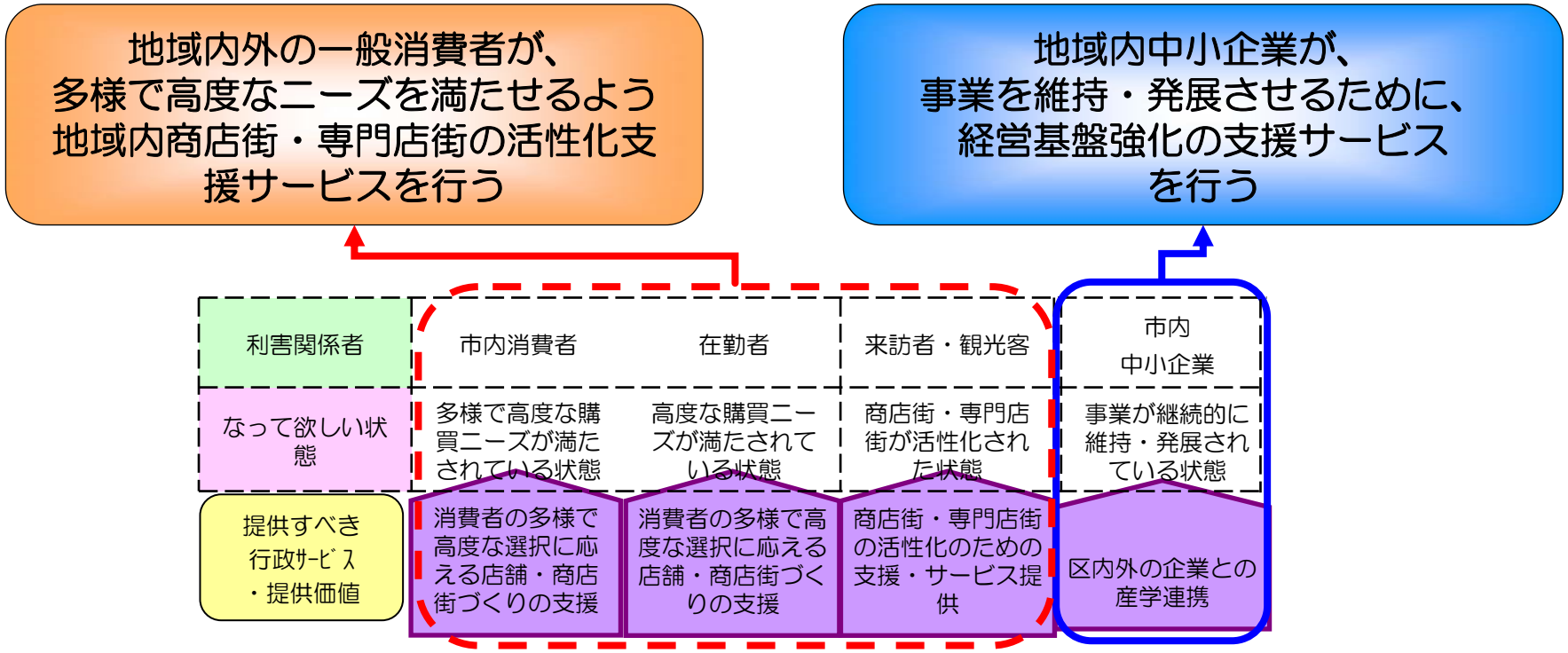
重点課題：世代間交流の場

利害関係者（対象者）	・３才児（友達が欲しくなる時期）	・親	・子育てを終えた世代	・保育士（保育園）	・ボランティア、ＮＰＯ	・企業
なって欲しい状態	・友達と仲良く遊べる ・親子関係がよくなる ・何でもよく食べる、眠る	・子育てが楽しめる（不安やわらぐ） ・子どもに愛情をもてる ・子育て仲間作れる ・叱ると怒るの違いがわかる	・子育てへの助言ができる ・子どもと付き合える ・子どもへの関心が強まる ・経験を活かしながら悩みを聞ける	・子どもを安心して任せられる教師になる ・親の悩みを聞ける	・自分の特技・強みを活かす	・子育てへの時間・ゆとりを提供する
提供すべき行政ｻｰﾋﾞｽ・提供価値		（ワークショップ研修） ・親子関係を見直す機会				

4. 施策・事業の検討　②施策目標の検討
＜記入のポイント＞

- 施策目標として記述する⇒施策目標では以下の3つがわかるように記述を行います
  - 1.「誰に対して」・・・重点化した利害関係者
  - 2.「どのような状態になってほしいか」・・・目指すべき状態を定義する
  - 3.「そのためにどのような価値を提供するか」・・・状態を実現するための提供価値・サービスを記述

施策目標の記述例　ー「誰が、どういう状態になるために、どのような価値を提供する」という上記1、2、3の順での記述例



施策（手段）は以下の流れで検討します

＜施策の検討手順＞

Step1.

施策目標を達成するための手段を検討する

Step2.

特に重要な手段に絞り込む

4. 施策・事業の検討　③施策（手段）の検討

施策とは「施策目標を達成するために重要と考えられる手段・方策」を指す

- 抽象的ではなく、より具体的であること
- 目標達成への効果が高い手段・方策であること
- 日常的なタスクではなく、重点的に取組むべき方向性を示すものであること
- 他の施策と比べた時に、より重要であり優先的に取組む必要のあるもの

といった視点から重点化し、選択していきます。

施策目標に対する施策の設定例（産業振興分野の例）

施策目標	地域内中小企業が事業を維持発展させるために、経営基盤強化の支援サービスを行う
施策	１．中小企業の情報リテラシー向上支援 ２．資金調達をはじめとする経営資源の確保支援 ３．中小企業経営トップの能力開発・人材育成支援

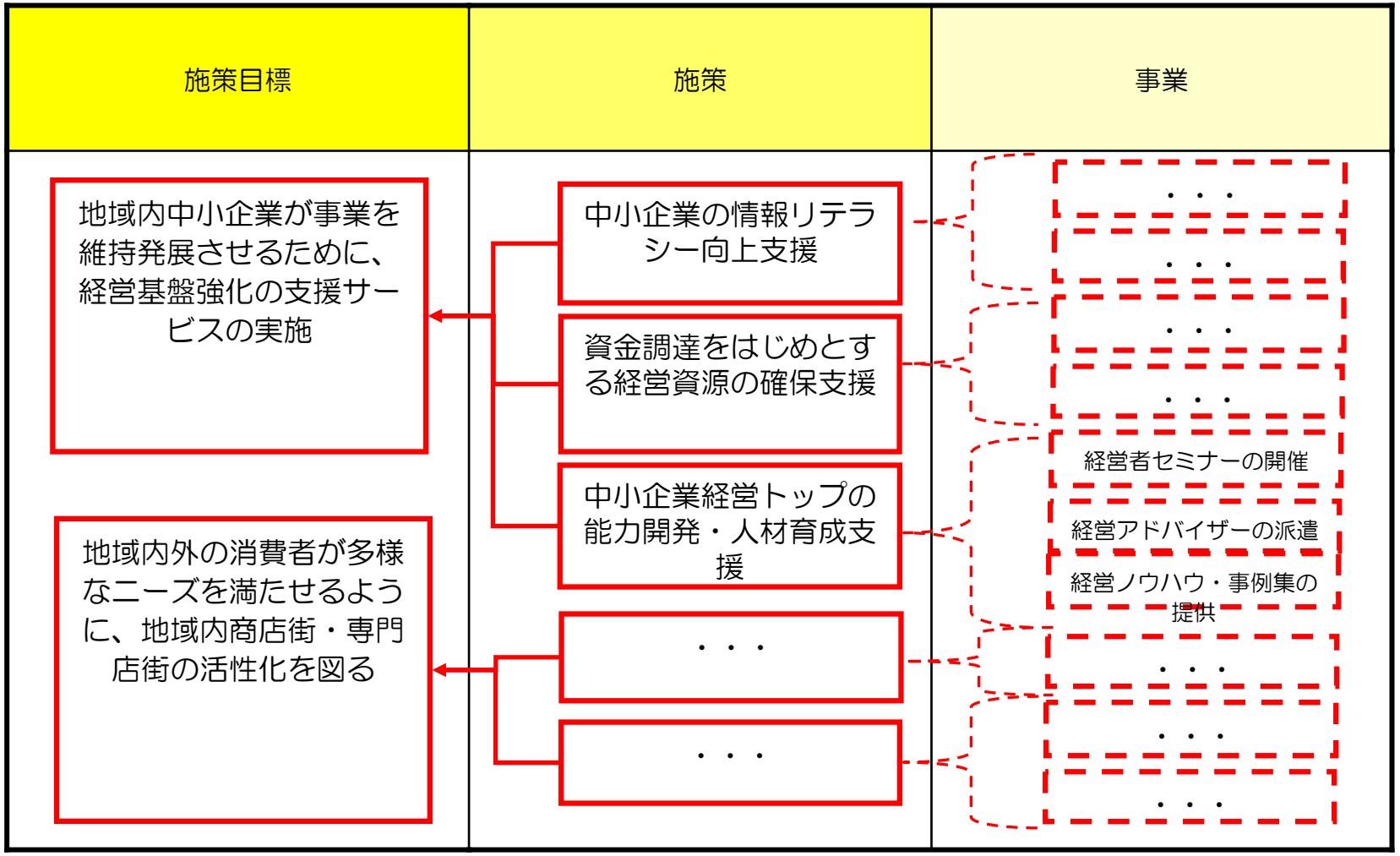
4. 施策・事業の検討　④事業の検討

事業とは「施策目標を実現するための“具体的な”手段・方策」を指す

- 目標達成への効果が高い手段・方策であること
  - 日常的なタスクにつながる具体性の高い手段・方策であること
    - 他の事業と比べたときに、より重要であり優先的に取組む必要のあるもの

といった視点から重点化し、選択していきます。

課題に対する施策の設定例（産業振興分野の例）

施策	中小企業経営トップの能力開発・人材育成支援
事業	経営者セミナーの開催 （企業マネジメントノウハウ、財務分析等のスキルや経営者同士のネットワーク構築を行う）

4. 施策・事業の検討　⑤検討結果イメージ